



萩の里

黒部市立萩生小学校
学校だより10号

令和2年3月11日

目指す子供の姿 **やさしく** **かしこく** **たくましく**

乗り越えるしなやかな心に

校長 高岡 薫

〈2月28日 全校集会にて〉

3月2日から、学校がお休みになります。新型コロナウイルスの感染が広がることを防止するためです。

みんなで集まって学習するのは、今日が3学期最後となるかもしれません。友達と一緒に勉強したり、遊んだりすることができないのはとても残念ですが、一人一人がしっかりと家庭で学習し、自分の体調を整え、みんなで乗り越えていきましょう。

3月2日からの臨時休校を受け、保護者の皆様には大変なご心配をおかけしております。本来ならば、「3月」が1年間の学習や生活のまとめを行う大切な時期であり、卒業式や修了式を経て、進学・進級に向けての心の準備をしていく時期でもあります。しかし、それが現在学校においてできない状況ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を受けて日本社会全体で命を守る取組を実施していることは、子供たちの心に必ずや響いてくることと思います。「自分の体調管理に努める」「毎日しっかりと家庭学習に取り組む」「報道されるニュースに関心をもって生活する」ことを通して、この現状を乗り越え、どんなことにも立ち向かうしなやかな心を育むチャンスと捉えていきたいと考えています。

一方、ご家庭の状況に応じて、自主学習の場を本校においても提供しております。学習の際には、マスク着用の上、子供たちの座席を2m以上離して交互に配置し、適切な環境となるよう窓を広く開け、こまめに換気を心がけております。また、スイッチやドアノブなどの手を触れる場所を消毒するとともに、登校時や昼食前に子供たちがしっかりと手洗いをするように見守っております。実際に手洗いの様子を見ておりますと、「手のひら→手の甲→爪→指の間→親指→手首」の順に行う手洗い表を見て、とても丁寧に行っている子供がいることが分かりました。各家庭におかれましても、子供たちが「分かっているよ。大丈夫」と自主的に行動できるよう、「しっかりと手洗い、正しく、丁寧に」の声かけをお願いします。

さて、先日黒部警察署より、「ネットの危険からお子様を守るために 今、保護者ができること」という冊子が届き、ホームページ上に掲載しました。警察の方々も、臨時休校を受けて、子供たちが何かのトラブルに巻き込まれるのではないかと心配しておられました。有害情報や「うっかりアクセス」によるトラブルからお子さんを守るために、平成29年3月からフィルタリング名称が「あんしんフィルター」に統一され、お子さんの年齢や判断力に応じて利用できることも書かれております。また、家庭のルールを決めることに関しては、「家庭内のコミュニケーションがまず基本です。日頃から、お子様との会話を大切に」とあります。お子さんの前では、スマホ等の使用を控え、互いの表情を見ながら話す大切さが分かります。ぜひご一読ください。

子供たちの心と体の成長に向けて、家庭と学校が両輪となって協力できますよう、よろしくをお願いします。

アクションプランに関するアンケートの集計結果をお知らせします

児童の自己評価と保護者の評価について、それぞれ1学期の結果と2学期の結果を並べて表示します。

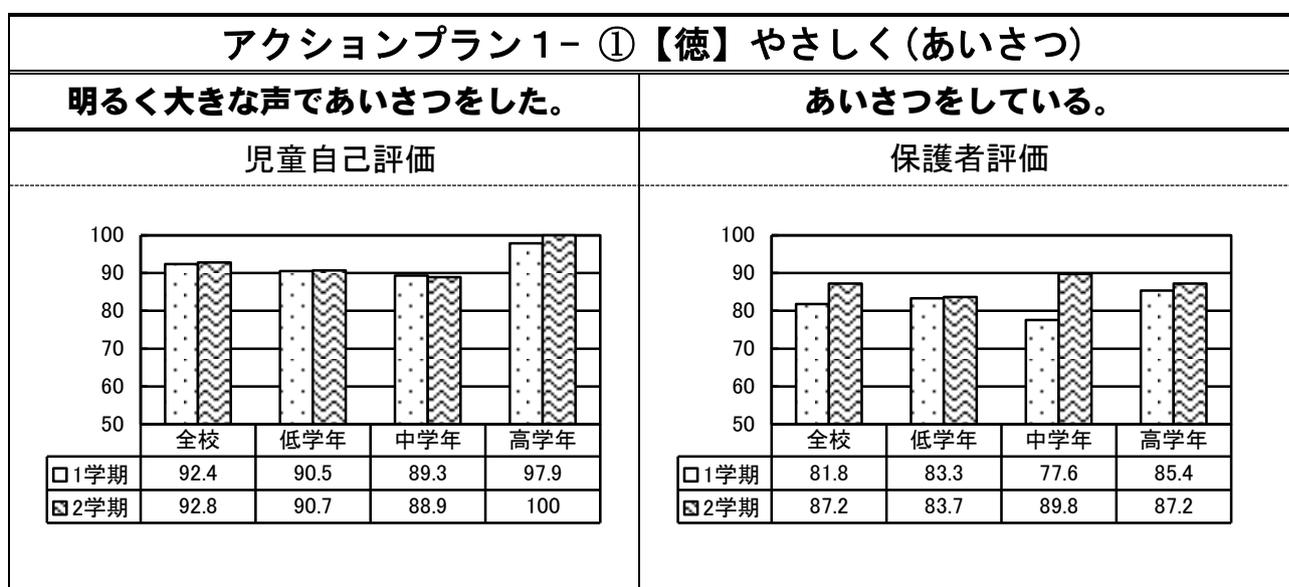
◆児童自己評価

「振り返り週間」（1学期…7/11～7/18、2学期…12/13～12/19）中、「〇」を付けた日が4日以上だった児童の割合を「達成した」としてグラフに表しました。

5日・4日	3日	2日・1日	0日
A：よくできた	B：できた	C：あまりできなかった	D：できなかった

◆保護者評価

4段階（A：よくできている、B：できている、C：あまりできていない、D：できていない）評価のうち、AとBを合わせた割合を「達成した」としてグラフに表しました。



考察・方策

1学期と2学期の結果を比べると、児童は挨拶をしようとする気持ちをずっともっており、自己評価はほぼ同じように高い割合を維持しています。一方、保護者の評価は1学期に比べ全体的によくなってきました。これは、学校で取り組んでいる「ワンストップ挨拶」「大きな声で相手を見て」といったことが少しずつできるようになってきており、挨拶の質がよくなってきたと感じられたのではないかと思います。

学校では、昨年に引き続き各学級で「挨拶の目当て・挨拶マスコット」を考えたり、児童会の代表委員会で挨拶について話し合い、それを基にして計画委員会を中心となって毎日の挨拶運動に取り組んだりしてきました。また、地域の方にたくさんご協力をいただき、「さわやか挨拶運動」を年2回（6日間ずつ）行いました。日常の継続した取組ばかりでなく、「さわやか挨拶運動」のような強調週間に地域の方と共に取り組むことによって、児童の挨拶に対する意識がとても高まったと感じています。

今後も児童が挨拶をしようとする気持ちをもち続けるように、教員や保護者が声かけをしたり、自分から行う挨拶や来客に対する挨拶を勧めたりして、児童の挨拶の質がさらに高まるような指導をしていきたいと思います。

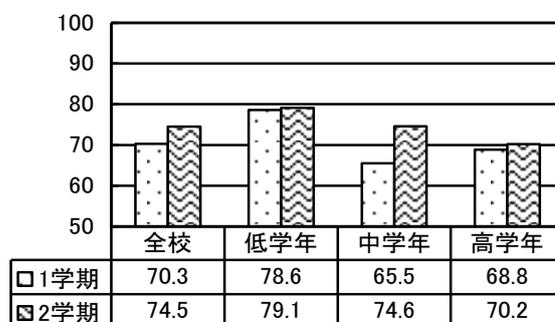
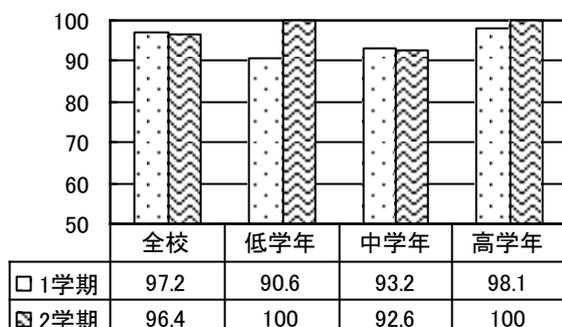
アクションプラン1ー②【徳】やさしく(言葉遣い)

友達にぼかぼか言葉をつかった。

やさしい言葉遣いをしている。

児童自己評価

保護者評価



考察・方策

1学期と2学期の結果を比べると、特に低学年の児童がぼかぼか言葉を使おうと意識し、よく使うようになってきたことが分かります。また、中学年児童の保護者で、優しい言葉遣いをするようになったと感じている方が増えてきたことが分かります。

学校では、今年度も各クラスで使ってほしいぼかぼか言葉について話し合い、児童玄関に言葉を掲示し、計画委員会が呼びかけました。しかし、学校評価アンケートの保護者の意見には、「言葉遣いがよくない」ということが挙げられており、課題が多いと感じていました。そこで、3学期には保護者の方にもご協力をいただき「ぼかぼか家族大作戦」の取組を行いました。学校と保護者が共通理解し、児童がやさしい言葉遣いをするように取り組んだことが、改善が見られた理由の一つではないかと思われます。

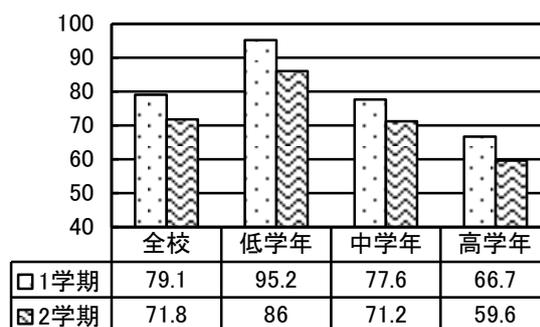
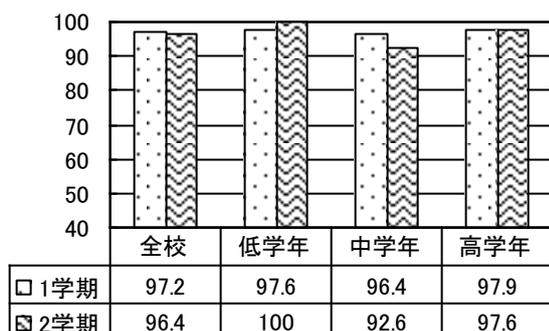
今後も学校と保護者が共通理解し、同じ方針で取り組んでいくことが大切だと思います。学校ではどのような取組ができるか、今後も考えていきます。

アクションプラン2【知】かしこく

家で(10分×学年)以上勉強している

児童自己評価

保護者評価



保護者アンケート 自由記述まとめ

2学期に実施しました保護者アンケートで寄せられたご意見を記載します。
紙面の都合上、皆様のご意見の意図を変えないよう表現を変更したり、重複したものをまとめたりしています。ご了承ください。

【○…よい面・成果 ▲…課題 ★…対策、希望】

1 やさしく（温かい人間関係づくり、家族のふれあい）

(1) 人間関係・縦割り活動・学校での取組について

- クラブ活動の話をよく聞く。他学年との交流がもっているようだ。学校生活を送る上で楽しみになっているようだ。[中]
- 縦割り給食グループでは、下級生を気遣う様子を家でも話してくれる。[高]
- 中学へ行くと、荻生の子は温かいやさしい子が多いと感じる。縦割り活動やぼかぼか言葉の取組の成果だと思う。[高]
- ランチルームで全学年一緒にご飯を食べていることで、たくさんのお友達が自然にできていてよい。[低]
- ふれあい週間で子供と面談してもらえ、子供一人一人と向き合えてよいと思っている。[低]
- ▲ 縦割り活動を通して、年下に対する態度を学んでほしい。特に下の子が言うことを聞かないときに暴力的にならず、どうすれば言うことを聞かせられるか考えてほしい。[中]
- ★縦割り活動を充実して、思いやりの心を育ててほしい。[低]
- ★各学年、一クラスしかなく、ほとんどが保育所から同じなので、良くも悪くも人間関係に刺激がない。他学年との交流を増やし、いろいろなタイプの児童と関わってほしい。[中]
- ★相談しやすい環境作りをしてほしい。[中]
- ★クラスの友達関係、中学校での友達作りが心配。[高]

(2) 言葉遣いについて

- ぼかぼか言葉の教育により、使ってよい言葉とだめな言葉を理解できているのでためになる。[中]
- 学年があげるにつれ、言葉遣いがきつくなっている（全体ではなく、自分の子供について）家族には気がつかっていないため、そうなるのか「親しき仲にも礼儀あり」ということを知り、実行できるように関わっていきたい。[中]
- ぼかぼか言葉のおかげで少しずつ言葉遣いが良くなってきたと思う。縦割り活動においても高学年、低学年とふれあえることができ、人間関係が良いも悪いも学ぶことができ身に付いている。[高]
- ぼかぼか言葉は親も言葉について考えるとてもいいきっかけになった。[高]
- ▲兄弟間の言葉遣いが乱雑になっている。[高]
- ★時々、言葉を省略して喋っている。言葉は世代によって違っていてもよいと思うが、正しい日本語を理解した上で使ってほしい。[高]

2 かしこく（分かる授業づくり・家庭学習の習慣付け）

(1) 学校の教育活動、分かる授業づくり

- 居残り学習は、本人のためにも良いと思う。冬、暗くなるのが早くなったら帰り道が心配と少し感じた。[高]
- その日の授業内容で、おもしろかったことを印象深げに楽しく家でも話してくれている。分かりやすく教えていただけているので大変助かっている。[高]

★英語教育をもっと。[中]

★漢字が苦手なので宿題で繰り返し出していただけるのはありがたい。応用、定着という点で追加の対応をお願いしたい。[中]

(2) 家庭学習の習慣付け

○九九や漢字などを覚えられるように工夫して教えていただいております。子供の意欲を引き出してもらっている。[低]

○家庭学習に時間をかけるのがいやなのか、やっつけ仕事のようにやっている。もう少し、考えて行ってほしい。[中]

★自学ノートは冊数の達成よりも、内容を大切にしてほしい。中身がないのにページだけ埋めるようなノートに意味があるのかな？宿題以外に毎日というのであれば、毎日何をするか考えるのが大変な子もいると思うので、時々、先生からテーマを出してもらえるといいと思う。[中]

★算数の内容が難しくなってきたので、家庭学習で頑張らせたいが、やる気が出ず、困っている。

[高]

▲夏休みの宿題にジュニア短歌が出ているが、子供たちは短歌の意味が分かっているか疑問だ。授業では習っていないとのことだ。[低]

▲家庭学習がんばりカードがしんどかったり、何とかさせなくていけないと思ったりする。勉強を進んだががんばる子にはいいと思う。[中]

▲10分×学年の認識が薄くて困っている。[高]

▲自学ノートは人それぞれ向き不向きがあると思う。この先続ければいいと言っておられる方もおられるが、適当に書いたりしているので、効果はあまりないと思う。[高]

3 たくましく（心身の健康づくり・規則正しい生活リズム）

(1) 心身の健康づくり

○どの活動にも真剣に取り組む子を見て、素晴らしい指導をしてくださっていると感じる。[低]

○わんぱくタイムでたくさん体を動かすことはとてもよいことだと思う。[中]

○苦手意識はありますが、自分の目標を達成できるように努力している姿を多く見かけるようになった。[高]

○目標をもって到達できる喜びを知ってもらえて励みになっていると思う。[高]

(2) 規則正しい生活リズム

○ゲンキッズは生活習慣を見直すよい機会となっている。[低]

★体を動かすことで、心のバランスが図れているときもあるので、今後もそういった時間を確保していただきたい。[高]

4 その他

○曜日によって〇〇チェック（ハンカチ・ティッシュ前髪つめ）があるので、子供自身忘れないように習慣になってよいと思う。[低]

★字も所作も「丁寧に」と教えてほしい。やり直しもいとわない。[低]

保護者の皆様からいただいた貴重なご意見や願い等を読ませていただきました。学校として真摯に受け止め、全教職員で共有し、学校経営の改善に役立てていく所存です。ご協力ありがとうございました。

アクションプラン最終報告～1年間の取組を振り返って～

令和元年度も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様には、この1年間心身ともに成長されたお子さんの姿をご覧になり、その成長を実感されていることと思います。学校では、今年度の総まとめと来年度に向けての準備を行っているところです。

今年度のアクションプランに関する取組と評価をお知らせします。今年度の成果と課題をしっかりと踏まえ、今後の学校経営・教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。今後ともご協力をお願いいたします。

【徳】さわかく	重点項目	【徳】さわやか挨拶（生徒指導）—やさしく—
	重点課題	好ましい人間関係を築く子供の育成
	達成目標	強調週間を設け、児童の自己評価で元気のよい「挨拶」ができたとする日が8割以上ある児童の割合90%以上を目指す。
	最終報告	A 12月 自己評価92.8%
	成果と課題	<p>◎各学級で「挨拶の目当て・挨拶マスコット」の話合い活動を行い、挨拶が4A運動の一つであり、大切な活動であることに気付くよう取り組むことができた。</p> <p>◎スローガン「自分から 元気に 大きな声で ワンストップ挨拶」を目当てに、「挨拶運動」に取り組んできた。計画委員会の児童が交代で、毎朝、挨拶を呼びかけたり、ランチルームで、挨拶の上手な児童を紹介したりして、さわやかな挨拶が自然とできる環境を整えるようにした。</p> <p>◎今年度も地域の皆様にご協力をいただき、「さわやか挨拶運動」を年2回（6日間ずつ）実施した。どの学年も大きな声で元気のよい挨拶を行うことができた。</p> <p>△子供たちは、さわやかな挨拶について共通理解をもち始め、さわやかな挨拶をしようと心がけている。しかし、挨拶はしているものの、声が小さく自分から挨拶することも少ないことが低い自己評価につながっている。今後は、自己評価の向上につながるような自分も相手も気持ちが良いと思える挨拶の仕方を身に付けられるように働きかけたい。</p> <p>△ぼかぼか言葉に関しても、各クラスで「使ってほしいぼかぼか言葉」を出して児童玄関に掲示し、計画委員会が呼び掛けた。ぼかぼか言葉を使おうとする児童が増える一方で、保護者から「言葉遣いがよくない」といった意見も学校評価のアンケート等で挙げられていた。学校生活の中でも、よくない言葉遣いが原因でけんかになることもあった。そこで、よくない言葉「ちくちく言葉」も具体化し、使わないように呼び掛けていきたい。</p> <p>◎言葉遣いに関しては、家庭にも協力を依頼し「ぼかぼか言葉大作戦」の取組を昨年度に引き続き行った。この取組により、家でも学校でも言葉遣いを見直して気を付けようとする児童が増えた。取組に対する保護者や子供の感想から、好ましい人間関係を築いていくためには、挨拶を含めたよりよい言葉遣いが必要であることを共通理解としてもつことができた。</p>
【知】かしく	重点項目	【知】学力向上 —かしこく—
	重点課題	自主的に学習する子供の育成
	達成目標	強調週間を設け、家庭学習に取り組む時間が学年の目標（学年×10分）に達成した日が8割以上ある児童の割合90%以上を目指す。
	最終報告	A 12月 自己評価96.4%
	成果と課題	<p>◎自学への取組は定着してきていたが、ノートの内容が課題であったため、自分のためになる自学ノートになるように、各学年でノートの書き方や内容について年度初めに改めて指導した。量よりも質が重要であることを意識させるためにノートの目</p>

当て冊数も見直し、低学年5冊、中学年6冊、高学年7冊と改めた。その結果、低学年はめあて冊数の到達者が多くなった。ノート数の変化がなかった高学年はやや到達者が減ってきているものの、丁寧さや内容の工夫は増してきているように感じる。また、学年の目当て冊数まで到達すると、全校の前で表彰され、校長先生からノートのよい点を話してもらうことも励みとなり、意欲化の一助となっている。

○家庭学習についての振り返りでは、1学期は約97%の児童が「学年の目標時間以上、家庭学習をした」と答えている。2学期は96%とやや下回ったが、概ね目標は達成されているものと思われる。家庭学習がんばり週間においても土日を含め、毎日自学ノートに取り組んでいる児童は8割以上おり、家庭学習の習慣化が定着してきていることが伺える。

△保護者の評価からは、自学ノートや家庭学習がんばり週間に頑張っているという意見が多くある一方で、もっと自主的に進めてほしい、ノートを丁寧に書いてほしいという意見もある。アンケート結果からも家庭学習ができていると答えている児童が97%に対して、「できている」と答えた保護者が72%と大きく差があることが分かった。自学ノートの内容や意欲付けについて家庭と連携を取りながら指導を継続していく必要がある。

△「始業時間を守る」「人の話は黙って聞く」などの学習規律の徹底に向けて、職員で共通理解・共通行動を心がけているが、学年の発達段階や児童個々の特性等により徹底できていないところもある。児童理解を基本としながら規律ある学習活動が行えるようさらに努めていく。

【体】 たくましく	重点項目	【体】健康・安全の指導 ーたくましくー
	重点課題	基本的な生活習慣と運動の習慣が身に付いている子供の育成
	達成目標	「みんなでチャレンジ3015」の達成率が90%以上になることを目指す。
	最終報告	A 2月末 達成率90.7%
	成果と課題	<p>○今年度は暖冬のため冬でも外で遊ぶことができ、休み時間に体を動かして遊ぶ機会が多かった。7月と12月に行った振り返り週間では、全校で約80%近くの子供が「運動によく取り組んだ」と答えており、運動の習慣が身に付いている子供が多いと考えられる。しかし、振り返り週間の結果や「みんなでチャレンジ3015」では、高学年の達成率が低く、学年が上がるにつれて教室で過ごす子供が増える傾向にあると考えられる。運動環境の整備や様々な運動の紹介等、高学年の子供たちが運動に進んで取り組むための方策が必要である。</p> <p>◎週2回の「わんぱくタイム」では、晴天時はグラウンド走と鉄棒、雨天時はストレッチ体操を行い、冬期間になると縦割りグループによる長なわとびや短なわとびに取り組んできた。子供たちは、「わんぱくタイム」を楽しみにしており、元気に走ったり、なわとびをしたりしている姿が見られた。そして、外の活動に鉄棒を取り入れたことで、休み時間にも鉄棒をしている子供が増えた。また、長なわとびのグループごとの回数を掲示したり、短なわとびの難しい技を紹介したりすることで、なわとびを練習しようという意欲が高まった。このことから、様々な運動を取り入れ、上手になっていく姿が分かるようにしたり、手本となる姿を見せたりすることが、運動に対する意欲を高めるために効果的であったと考えられる。</p> <p>○毎月第1週目に「さわやかチェック」を行った。その中に、就寝時刻やメディアに関わった時間を調べる項目も入れた。保健委員が各学年の達成率を調べ、保健室前に結果を掲示したり昼の放送でよかった学年を知らせたりした。このことで、全校的に就寝時刻やメディアに関わる時間を意識するようになった。しかし、守っていない子供は固定化されており、「さわやかチェック」を繰り返して行っても改善が見られない子供もいた。このことから、個別の指導や家庭への働きかけが必要であると考えられる。</p>